

日本語解説・歌詞訳 Looking for the Clues ～ 自分探しの旅 リー・スロゲット オリジナル全13曲

「Looking for the Clues～自分探しの旅」は、リー・スロゲットが2006年にデビュー作「Sliding to your destiny」をリリースしてから2年半の月日をかけ完成させた待望のセカンド・アルバムだ。全編アコースティックの本作にはコントラバスとバックボーカルのリズ・フレンチャムを始め、ドラムのマーク・ブランチとトム・ムーア、ディジュリドゥのスタックス、バイオリンのグレッチェン・アンダーソン等が参加し、サウンドに厚みを加えている。収録曲は、ピーター・ニューウェルが手がけた「Blue Jewel」と「River」の作詞以外は全てリー・スロゲットによる作詞作曲である。ミキシングはスイート・ウオーター・スタジオのレイ・ラックハースト、マスタリングはデックス・マスタリングのジョナサンZが担当した。

アルバムタイトルとなっている1曲目の「Looking for the Clues」および6曲目の「Good Fortune」は1990年代の日本滞在時代を振り返り、自己の成長の軌跡を辿った歌だ。4曲目の「On the Climbing Road」は、丘の上で車にガソリンを入れながらコンクリートの建物の向こうに広がるポート・フィリップ湾を眺めていた時に、白人入植前の風光明媚な景色を想って喪失感を味わった自己の体験を歌にしたものだ。5曲目の「Money can't buy happiness」は、幸福はお金で買えないという通説が研究により立証されたというニュースからインスピレーションを受けて作ったブルースだ。リズ・フレンチャムのアドリブによるバックボーカルが花を添えている。7曲目の「Thornbill」はハチドリのような繊細な動きをイメージさせるインストルメンタルの小曲だ。8曲目の「Crayfish Col」は、身近な人物の観察を通して出来上がった曲の一つで、メルボルンの生活にビリオドを打ち大陸を横断して西豪州の僻地へと急ぎ旅に出た男の物語だ。オーストラリアではロブスターのことをクレイフィッシュと呼ぶ。9曲目の「Am I going insane」は、目覚めた時に夢と現実の区別がつかなくなったり、前夜見た悪い夢が尾を引いてその日の気分に影響を及ぼすようなストレス時によくある心理状態を歌ったもので、バイオリンの音色が悲愴感を漂わせている。10曲目の「River」はオーストラリアのアウトバックのような乾燥する大地をテーマにした歌であり、オーストラリアの先住民アボリジニの伝統楽器ディジュリドゥの尺八を彷彿とさせるサウンドが幻想的な雰囲気醸し出しているナンバーだ。12曲目の「Boomer and Sweet Honey」は、リーの身近で実際に起きた事件をもとに、心のヒーリングのために作られた曲である。最後の「Sweet Water Rag」のタイトルは本作の収録が行われたスタジオ名にちなんだスライドギターによるインストルメンタルだ。

リー・スロゲット日本語サイト <http://luckyleigh.com/shopj.html>

1. Looking for the Clues

東京のこざかしい
カラスに石
この国去る前に
まず電車で北へ
愛しい彼女
ああ笑顔が見たい
時間切れまで
一緒にいたい

知を求めて来た
けど迷宮入り
答えは見えない
けどカギを探す
報われる時が
来るというけど
叶わないかもと
考えてしまう

必死だった
去るとき来た
無駄ではなかった
ただ転機なのさ
来た時よりは
賢くなったさ
右も左も
わからなかったから

別れは辛い
心の友
そして大事な人
心の糧
別れてさっぱり
することもあるが
どうしても見たい
彼女の笑顔

うまくいったら
戻って来るかも
うまくいかなくても
有意義だった旅

2. 青い宝石

ブルージュエル 何を為そう
君の愛 美のために
月星と袂分ち
金星と火星と

苦痛をかけてごめん
恥ずべき屍の山
解放の日を祈る
自然への冒険から

どの国もどの時代も
不寛容と欲で充ち
変わる日が来るのか
また子孫も過ち犯すのか

3. 石

川に投じた石
川底沈み
永遠（とわ）に留まる
変わるもの
測れないもの

冬来たり枯葉落ち
橙に琥珀
朽ちて果てる
木枯らし吹くたびに
木々は強く

若き日を振り返る
答なき問いに
打ちひしがれた
旅に出た
行くあてもなく

人生のページ重ね
力萎え
心太く
魂は育つ
己が与えるほど

魂は

如何なるもの
重い岩か
軽い羽か
育つもの？
永久に生きるもの？

輝く太陽
広い海洋
荒れ狂わぬ
風のように
縛られぬ
時 煩惱 感情

川底に 行む石
目立たなく 忘れ去られ
苦痛もなし
ああ迷いもなし

4. 上り坂

よく通る上り坂
てっぺん近くでガソリン満たす
振り返って海を見る
在りし日の情景浮かぶ

あたり一面の街路が
海を背にした丘陵になり
感傷にひたるひととき
失った美を想い

失楽園を眺めつつ
進歩の果実に払った代償
エデンの園 掘り返し
造られた コンクリートタウン

未来のハイウェイ 終点いざこ
終わるのだろうか この破壊
満タンになり 代金払い
発進する 渋滞の中へ

5. 幸せは金じゃない

幸せは金じゃない
というけれど
金銭ストレス
救うのは金
まともな食事と
寝床と
暖かいコートと
帽子が買える

子供の教育
子供が読む本
医療保険に
絆創膏
幸せは金じゃない
誰の戯言
規則に縛られない
余裕あるやつ

雨粒と星ほどの
金が欲しい
極貧に施し
思いのままに
富裕者の権謀
貧者の絶望
金の雨降り注ぐ
富む者に

幸せは金じゃない
友情は買えぬ
魂も救えぬ
最期の時に
でも立派な墓石
買えるだろう
より楽な人生
気楽ならば
幸せは金じゃない
ケーキのアイシング
ケーキを甘くする
砂糖が金
その代償として
そう ただじゃないさ
とればとるほど
もっと欲しくなる

6. 幸運

曲がり角の
先はわからない
旅を始めなきゃ
たどりつかない
変えたかった
この人生
それが物語の
始まりだった

残れという人
行けという人
頼る人にきくと
見なきゃ知らぬまま
だから荷造り
決めた日取り
外国行きの
チケット買った

見えなかった
旅の終わり
でもボール受けたら
走り出すだろう
ゴールはそこに
あるけど遠い
答えのする時
定かじゃない

渡り歩いた
半年ほど
楽しいときと
落ち込むとき
ある晩家に
ついたら部屋に
未来の花嫁
座っていた

旅立ちの時は
考えもしない
地球の裏側の
異国の地で
夢みつけるとは
借りてた部屋で
天の贈り物
君に会うとは

スムーズには
いかなかった
リズムつかむまで
時間かかった
しばらくして
歩調が合った
ようやく二人の
息が合った

だから忘れるな
毎日起きる時
何か良いことが
近づいてる
賞かもしれない
宝くじかも
あるいは旧友に
出くわすかも

何が来るかは
わからない
でも幸運は来る
誓ってもいい
手にしたチャンスは
ドア開けるカギ
歩み続ければ
道は拓く

7. ハチドリ

インストゥルメンタル

8. Crayfish Col

Crayfish Col 沖へ
出稼ぎに
日の出前に起き
ロブスター漁
ある時西へ
逃避行
行かなきゃと言って
翌日発った

有り金で四駆買い
荷をまとめ
アクセルふかして
過去煙に巻く
三日休まず
寄り道せず
ナラボーの彼方へ
霞の中

Crayfish Col は過去
捨て去りたかった
新たな道を
未来に向かう
でも過去つきまとう
頭の中
とりつき むさぼり
時にうづく

ロブスター漁は
孤独すぎる
向く者もいるが
コルには不向き
だから半年後に
また荷をまとめ
今度はゆっくり
帰路につく

幸福は得づらい
余裕がないと
マナー生活
リセットが要る
情熱とは生きる糧
愛ふやす術
旅の道しるべ
禍い福に転じる手

今 Crayfish Col は
コリン社長
湾望む丘に
家を建てた
たまに窓を眺め
思い馳せる
水平線の彼方
呼び起す
漁に出た日々

古き良き日
はるか昔
それでもいい
戻るかもいつか

9. 狂いそうだよ

昨晚 悪夢の連続
君はもういなかった
外に忘れてた全財産
裏口が開いたまま
トースト焦げTV爆発
風呂の水あふれてた
フェンス倒れ車さび
キレる一歩手前だった

Yeah yeah 誰のせいだよ
Yeah yeah 狂いそうだよ

起きたら 君はそこに
ずっといたみたいだった
そのほかも変わらぬまま
昨日と同じまま

Yeah yeah 誰のせいだよ
Yeah yeah 狂いそうだよ

小さな不安 忍び寄る
ホルモンバランス 寝不足
最近記憶力衰え
留守電に返事しない友

Yeah yeah 誰のせいだよ
Yeah yeah 狂いそうだよ

ストレス、孤独に貧困
全ての荷がのしかかか
はまれば抜け出しようがない
岩押し登るも
転げ落ちてくる

Yeah yeah 誰のせいだよ
Yeah yeah 狂いそうだよ

10. River

River oh river 石ころ運ぶ
れき岩を砂に粘土に変えて

石芯はゆく
石心はゆく

River 砂漠の蒼天に雨乞い
細流干上がる褐色の堤
涙いるなら
出るなら泣こう

嵐雲渦巻き大地を枯らす
苦悶の魂 翻弄し去りゆく
石だけ残る
石だけ残る

River oh river 身を捧げたら
亡骸を海に送ってくれるか
我が夢描き
放て魂

11. スイッチバック

インストゥルメンタル

12. ブーマーとスイート・ハニー

飲み過ぎたブーマー 二日後に目覚めた
感覚戻るまで 一、二時間かかった
ああ前夜の前夜は お祭り騒ぎ
今は忘却の彼方 想像にまかすだけ

前にも似たことあり みな距離置いた
二日酔いの寝ぼけ男に 聞く耳はない
でもハニー事情知らずに まとわりついた
純情な娘 憧れか愛か まだ見極められず

その日意見の違いで口論になった
理由なく事態は悪化するもの
ブーマーわめき出し ハニー耐えられず
ドア叩き閉め
怒り沸騰 立ち去った 怒鳴り合いの中

がらんだ家で ブーマー考えた
多分一人の時間必要だった
だから電話鳴っても無視 騙してるよう
会わない期間 日が週に 週が月に

家を出よう 金曜の夜 仕事の息抜き
ブーマーは頭いっぱい 集中出来なかった
生バンド終わり 人散り 夜も終わり
駐車場のライトの下 誰かが袋叩き

それを見たブーマーは 鎮めに入った
弱い者いじめ許せぬ 怖い者知らず
でも火に油 野次馬は なぜか見てるだけ
トラック野郎 ブーマーを追い回し 奈落の底へ

車縫い鬼ごっこ ゴリラ男追い続け
ついに猛獣はブーマーを餌食にし
激しく痛みつけた 骨に沁みるほど
気絶したブーマーは 置き去りにされた

探していなくても 巡り合う不思議
ブーマー見上げたら 天使が舞ってた
天使に聞いた「天国？」「溝の中よ」
また気を失う男を ハニーが見下ろしてた

倒れていた彼を通り道で見つけ
抱えて連れ帰り洗って寝かせた
ブーマー気がつくとき裸のハニーが添い寝
天使と幸運の星に感謝 また眠りの底へ

Sleeping.... Sleeping.... Sleeping....

13. スウィート・ウォーター・ラヴ

インストゥルメンタル